

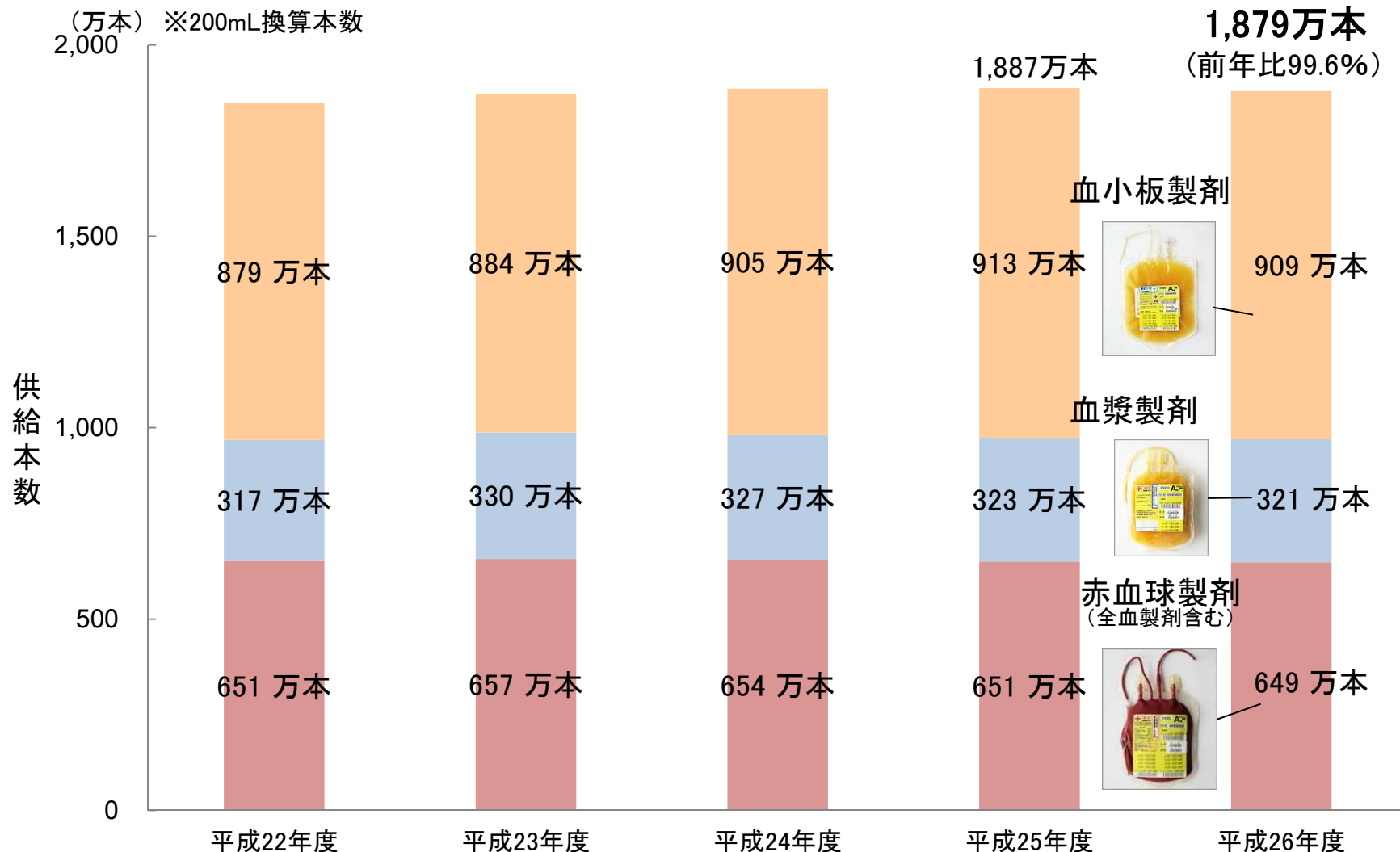
平成26年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

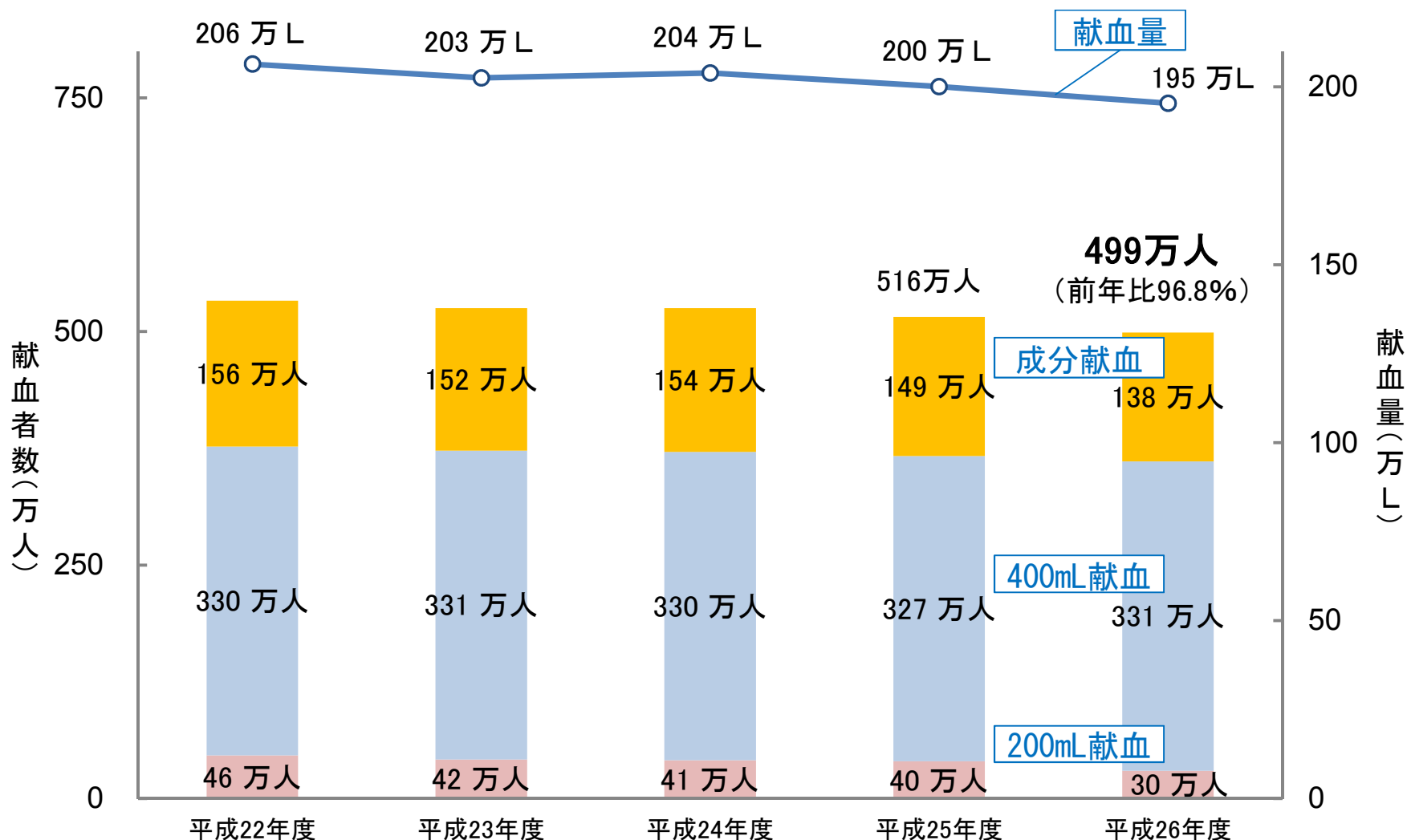
平成27年10月19日（月）
血液事業部会運営委員会

1. 輸血用血液供給量の推移



全体的に概ね横ばいで推移しています。

2. 献血者数の推移



供給状況にあわせ、効率的かつ計画的に献血協力をいただいています。

3. 平成26年度の事業計画における重点事項

(1) 将来にわたる献血者の確保

・若年層(10～30代)協力者の拡大

「LOVE in Actionプロジェクト」を基軸とした雑誌・ラジオ放送・SNS等を含む様々な媒体による広報展開

学校での献血セミナーの開催

学生ボランティア組織等との協力・連携

小学生から対象とした血液センター体験学習

「献血推進2014」項目	目標値	実績値
10代の献血率	6.4%	5.7%
20代の献血率	8.4%	6.7%



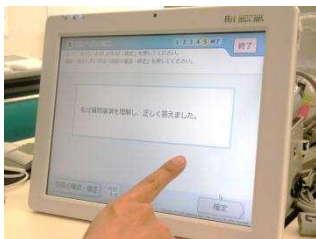
・献血環境の整備

137カ所の献血ルームと286台の献血バスで協力受付

平成26年度は、11カ所の献血ルームを移転または改装

(2) 事業運営体制の充実

- ・新たな基幹システムの導入(平成26年5月～)
広域事業運営体制への適合、GMPの準拠等、事業の基盤強化を図りました。



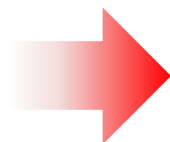
タッチパネルによる
問診項目の回答(電子カルテの導入)

(3) 輸血用血液製剤の安全性の向上

- ・新たな核酸増幅検査(NAT)の導入(平成26年8月)

個別検査へ切り替え

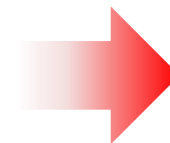
20人分
まとめて検査



1人
ずつ検査

検査拠点の増設

4カ所



8カ所

【報告】 NAT結果陽性が多発した不具合事例への対応

(1) 不具合の概要

平成27年1月31日、中四国ブロック血液センターの核酸増幅検査(NAT)において、NAT装置(PANTHER)メーカーのエンジニアの作業ミスに由来するNAT陽性多発事例が発生したため、同センターのPANTHER(全5台)を停止した。

(2) 対応状況

代替施設におけるNAT実施

九州ブロック血液センター及び近畿ブロック血液センターに検体を送付してNATを実施(血小板検体については、中四国ブロック血液センターに暫定的に設置した2台のPANTHERで、3月2日よりNATを実施)

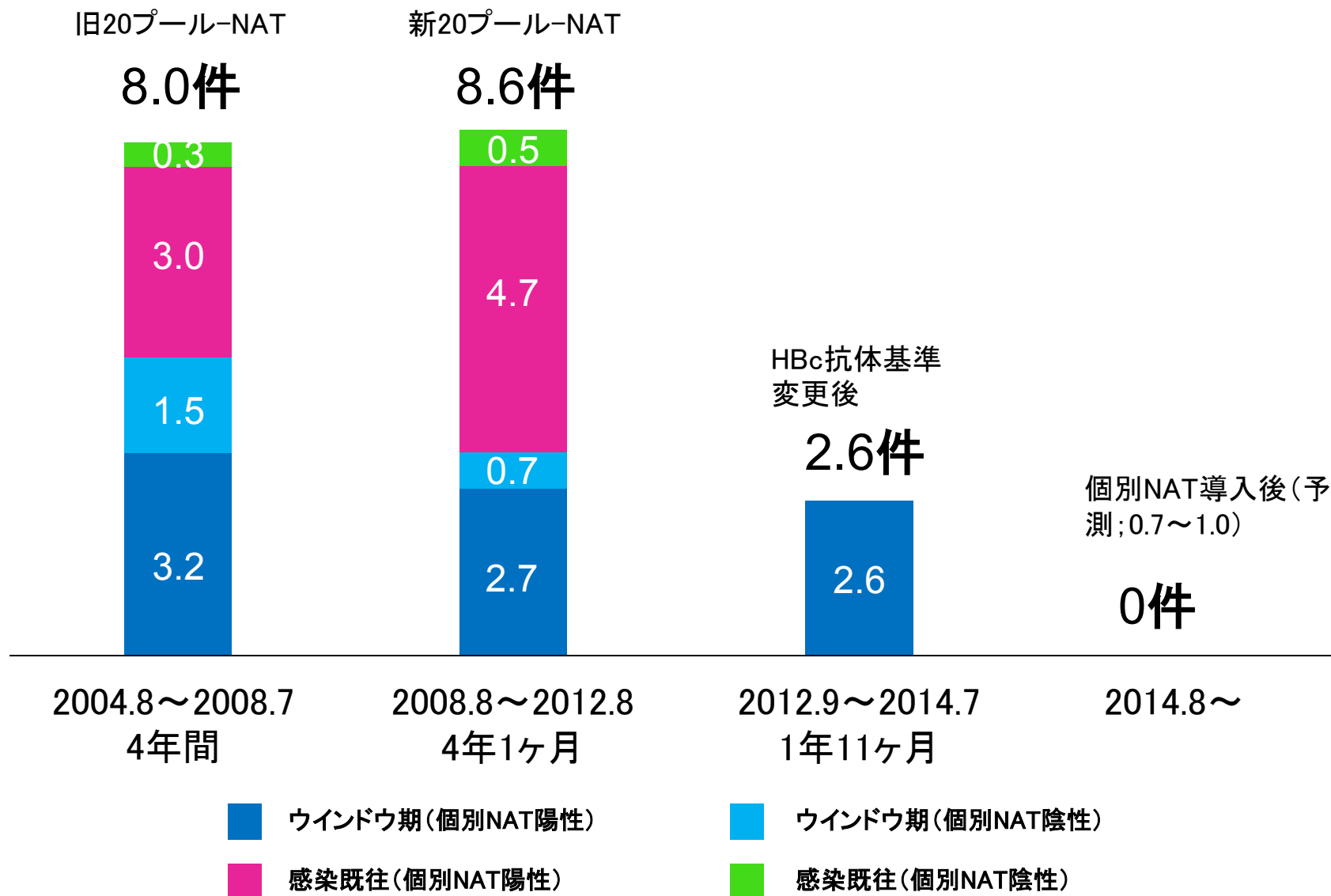
復旧に向けた準備

新たなPANTHER及び付属装置の確保、NATエリアの工事等

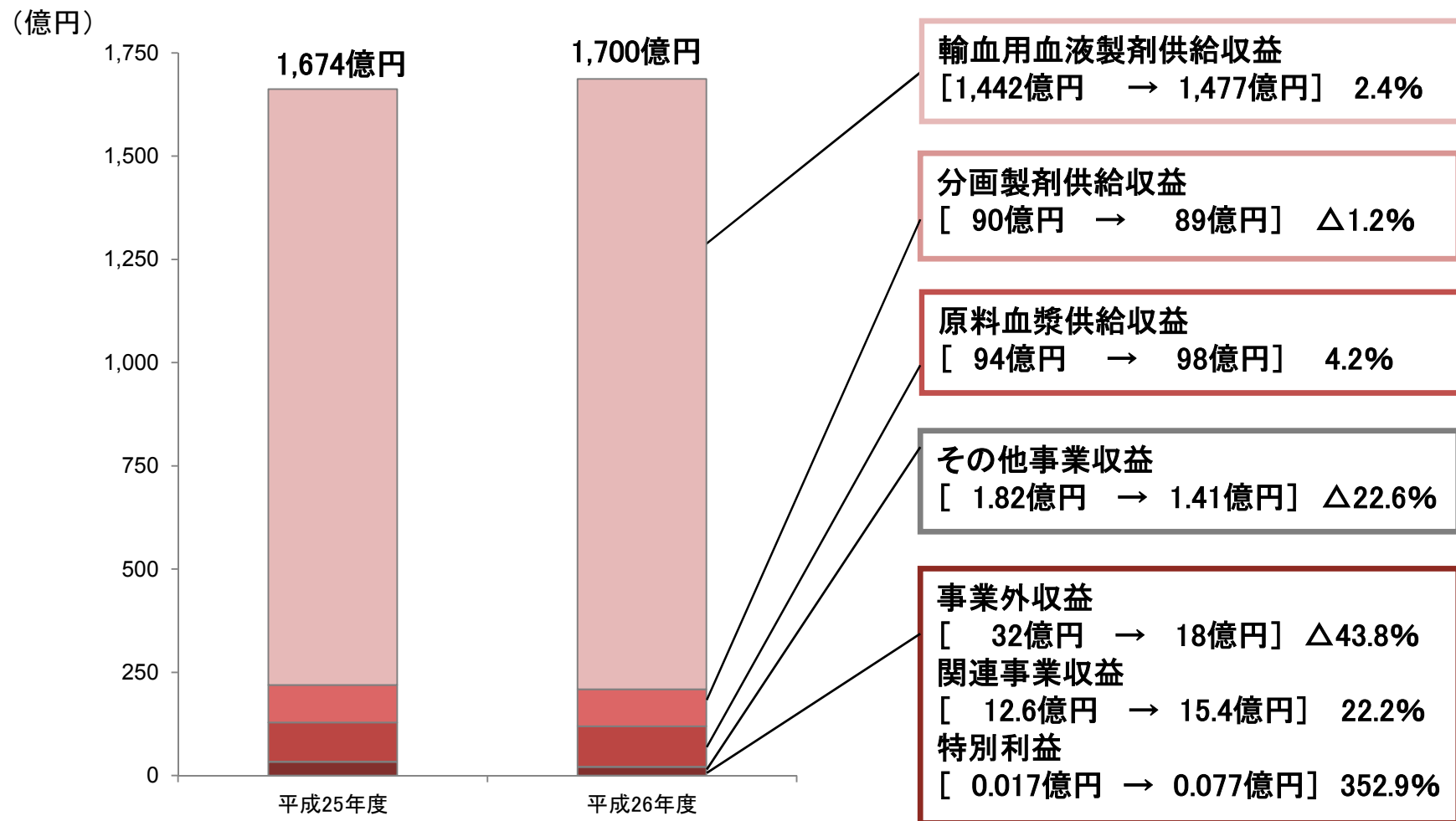
(3) NATの全面稼働

当初は10月1日の稼働を予定して準備を進めていたが、工事の開始時期が早まり、さらに装置の設置及びバリデーション等が順調に行われたため、9月17日より全面稼働し、現在は安定的にNATが行われている。

【参考】 年間あたりの輸血後HBV感染症例数

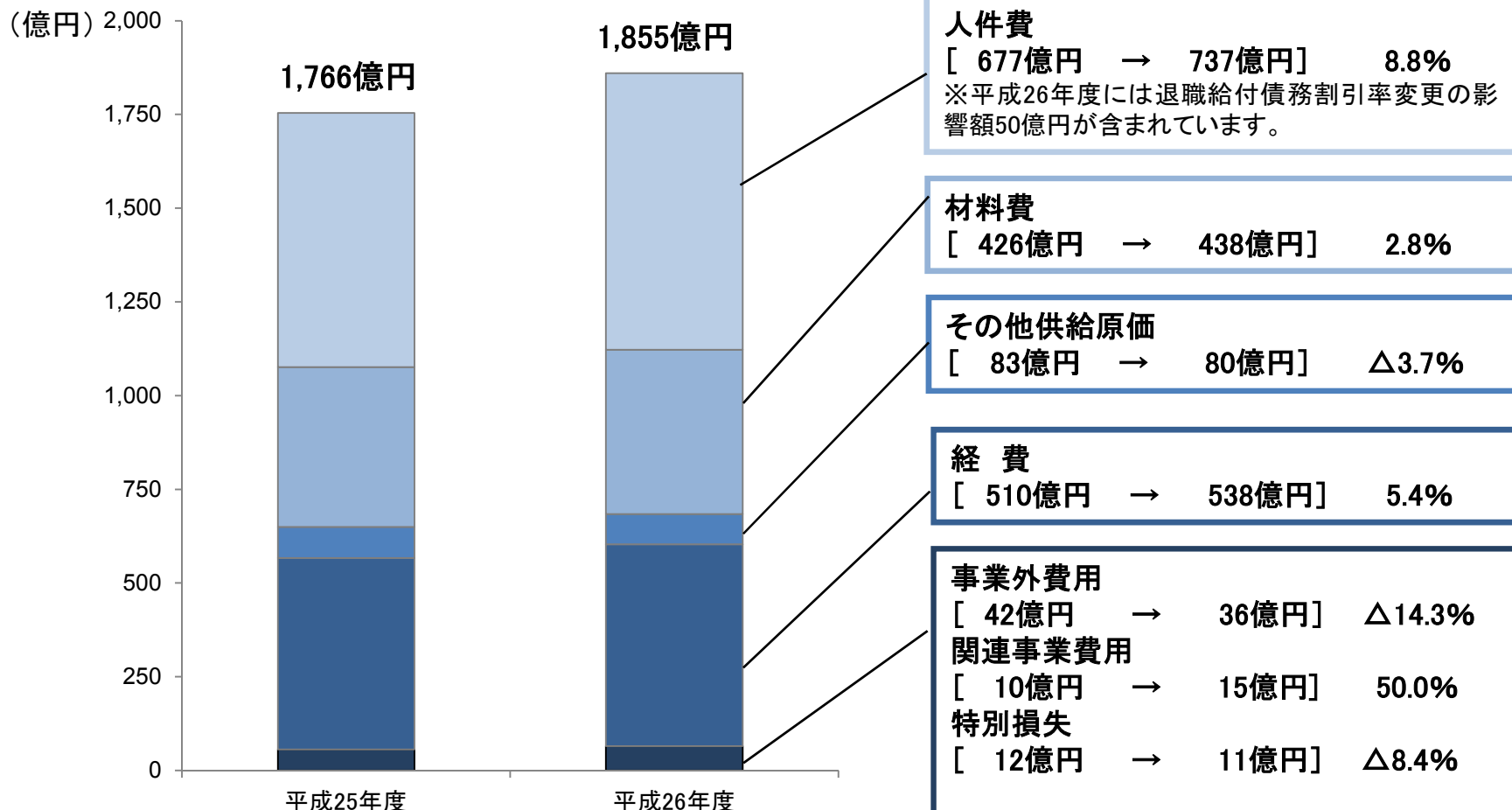


4. 血液事業特別会計収益的収入のあらまし



	平成25年度	平成26年度	増減率
収益的収入合計	1,674億円	1,700億円	1.5%

5. 血液事業特別会計収益的支出のあらまし



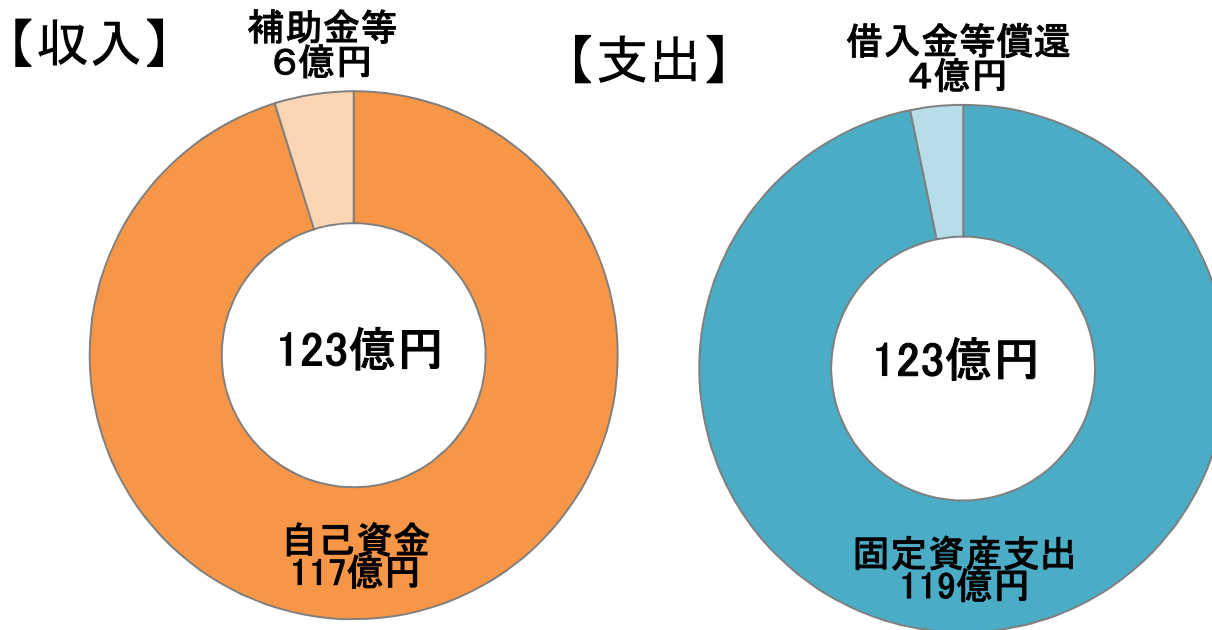
収益的支出合計	平成25年度 1,766億円	→	平成26年度 1,855億円	増減率 5.0%
収支差引額	△91億円	→	△155億円	

【補足】収支差引額について

平成26年度決算の収支差引額は△155億円であったが、対予算における想定していなかった支出増加要因があった。

①退職給付債務割引率0.8%へ変更による人件費増加	50億円
②システム本稼働による時間外手当	4億円
③賞与支給率0.15カ月増加	4億円
④給与改定による差額支給	2億円
⑤個別NAT導入時の危機管理費用	10億円
⑥システム並行稼働に伴う保守費用	7億円
	合計77億円

7. 血液事業特別会計資本的収支のあらまし



資本的支出の内訳

内 容	金 額
土地の購入	15億円
血液センター、献血ルームの施設整備等	40億円
成分採血装置、血液保管庫などの整備	41億円
移動採血車、献血運搬車などの車両整備等	8億円
血液事業情報システム等	14億円
借入金等の償還	4億円



茨城県赤十字血液センター(新築)



横浜駅西口献血ルーム(改装)

9. 平成27年度の主な経営改善項目

スケールメリット活用による費用削減		
①	実施内容	本社一括契約により、採血バッグ、試薬等の仕入単価の価格交渉を行う。
	削減額 (第1四半期)	昨年度価格で購入した場合と比較し約1.3億円の削減。
血小板の分割推進		
②	実施内容	20単位以上採血可能なドナーから10単位2本を製造する。 献血者が減少した状況化においても安定供給を図ることができる。
	削減額 (第1四半期)	約13,300本製造により約0.9億円の削減。
血液事業本部予算の削減		
③	実施内容	血液事業本部の平成27年度予算策定に際して、平成26年度予算から大幅に削減する。
	削減額 (第1四半期)	公益財団法人血液製剤調査機構への拠出金0.4億円及びシステム機器費用等を合計約10.5億円削減。
需要に見合った400mL献血率の向上		
④	実施内容	26年度実績91.8%→92.8%へ1%向上の計画。(全国の供給の需要は95%)
	削減額 (第1四半期)	第1四半期実績(93.9%)は、計画に対し材料費約1.8億円の削減。 前年度同期に対し、材料費約1.7億円の削減。